

砺波カイニヨ倶楽部会報

第八号

平成十一年三月発行 発行所 砺波カイニヨ倶楽部 代表幹事 柏樹直樹
事務局 富山県砺波市表町七-二十五 TEL 0763/33/6588
天野一男建築工房内

春の訪れとともに、お待たせの会報第八号です。カイニヨも冬の眠りから目覚めましたので、そろそろ活動を開始いたします。

◇紅葉の中での炭焼き体験

平成十年十一月一日(日)砺波市東別所の竹部丈夫さんの乳母懐(ばーとこ)兄弟窯で「炭焼き体験会」を催した。肌寒い中、三十名余りの会員が参加した。

炭焼き窯を目の前にして、竹部さんから炭焼き窯のいわれや「炭」のできるまでを説明していただいた。実際に炭を作るには何日もかかるので、窯へ木を詰める作業だけを体験した。

作業がひととおり終わると、会員の和田健さんが、まわりの山や森林のことを草木に触れながら説明された。

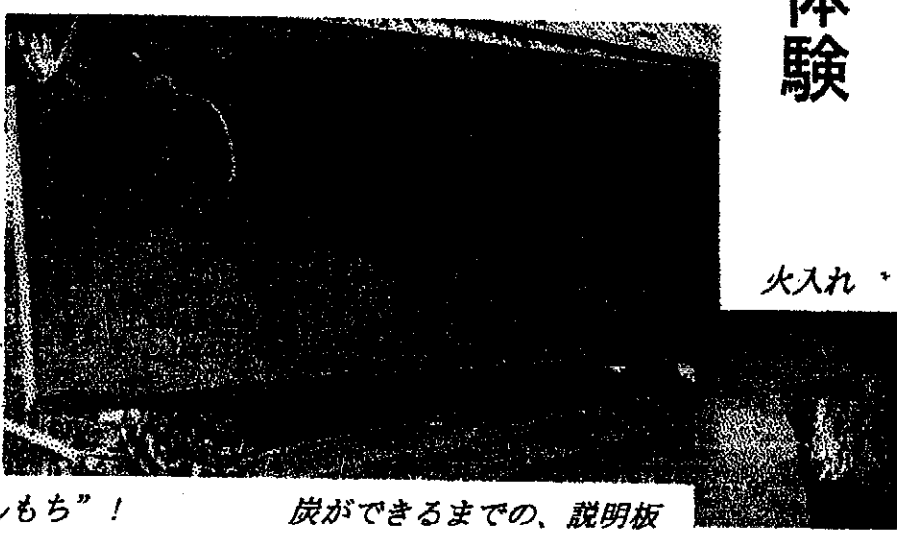
昼食は、いつもの手作り豚汁(カイニヨ汁?)で少し冷えた体をおなかの中からあたためた。この日、竹部さんからいただいた手作りの「こんもち」と「いもがいもち」がとてもおいしく、めずらしさもあって子供たちをはじめ大人たちも大喜びで食べた。



和田さんの樹木についての説明



炭で焼いたらいちだんとおいしい「こんもち」!



炭ができるまでの、説明板

雨天決行!

次回の行事予定

■お申し込みは 事務局 TEL/FAX 0763-33-6588
〆切 4月5日(月)まで

桜見学と城端散策

春です!花見の季節です!昔から日本人の心を癒しつつしてきた桜の木。その神秘的な美しさをカイニヨの樹木をとおして見つめなおしてみませんか?

- 日時 / 4月11日(日) 午前9時40分
- 場所 / 城端駅前集合 *解散は12時45分ごろ
- 会費 / 500円(飲み物が出ます)
- 内容 / 山田川周辺の桜見学と城端町(善徳寺)の散策
- 歩きやすい服装で/昼食(おにぎり・お茶等)各自持参

尚、なるべくJRをご利用下さい。
●JRのご案内(城端駅着 9時31分)
高岡駅発 8時49分
砺波駅発 9時09分
帰りは城端駅発12時54分があります。

◇役員会から

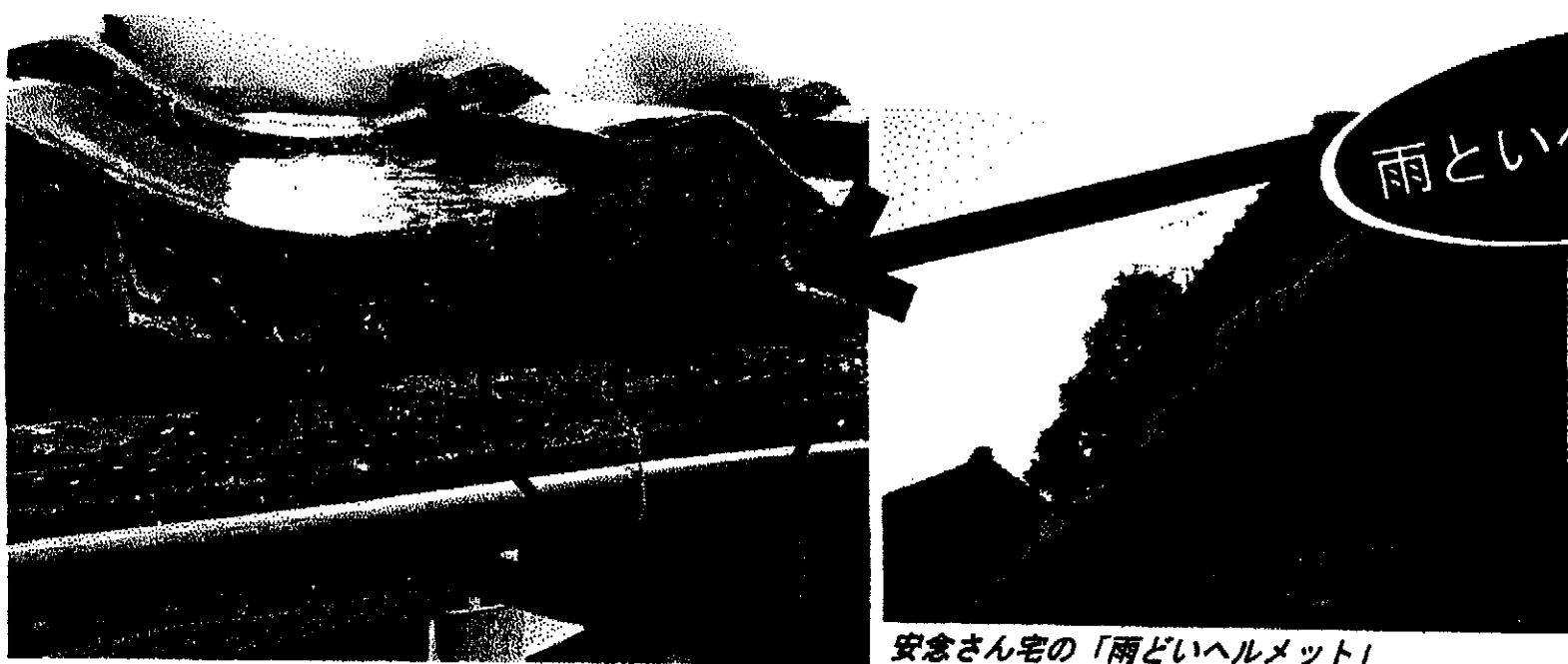
平成十年十二月十五日(火)幹事の尾田武雄さん宅(ギャラリー尾田)で役員会を行いました。話し合った内容は、
一、落ち葉に付着する菌について話したり、菌の除去対策と樋の工夫がないか調べる
二、会の顧問の特別委員について
以前より、カイニヨの掃除などを行ってまいりました。しかし、多くのカイニヨに関わる生活者の問題を解決するには、ほゞ遠いと思います。住まい手の問題を根本的に処理できることを考える必要があると思います。調査した結果、「雨といへルメット」を見つけました。裏面を参照してください。

雨といヘルメット!

耳より情報

樋づまりに「雨といヘルメット」

——安念さん宅の設置結果を見聞——



安念さん宅の「雨といヘルメット」

以前からあちこちで雨どいに落ち葉が詰まりその掃除に難儀されていることを耳にしています。「簡単に安全な掃除方法はないか」「雨どい自体の取り付けで工夫ができないか」等、カイニヨ倶楽部役員会でもいつも話題になっていました。

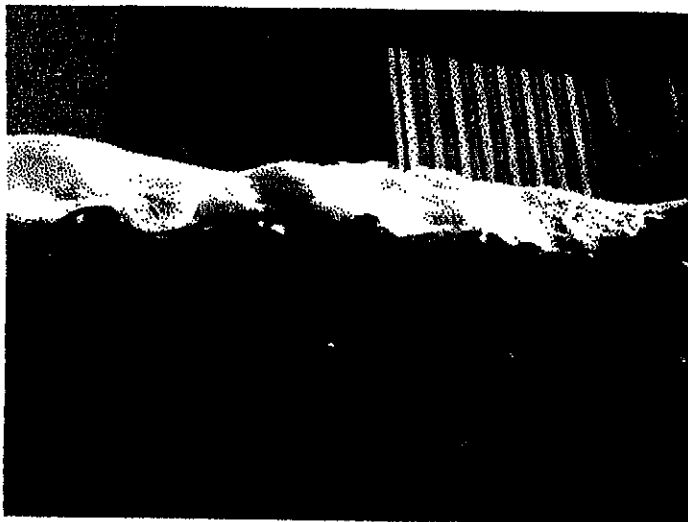
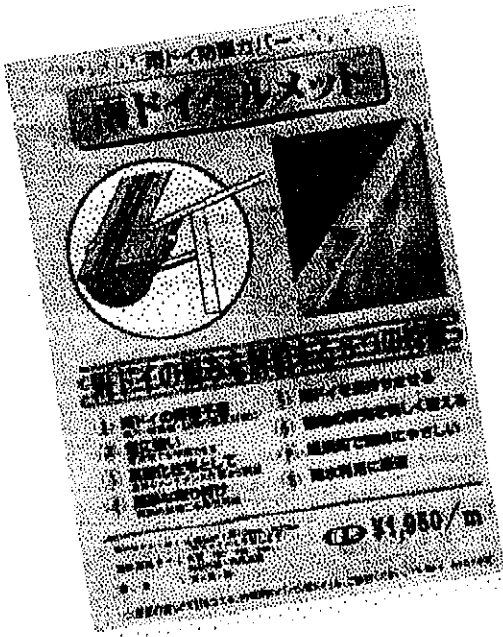
そして、いろいろな調べで、善衛門産業が「雨どいヘルメット」を考案し、すでに福岡町、小矢部市、砺波市等で何軒か設置されていることがわかりました。

早速、平成十一年二月九日、「論より証拠」と実際に設置された安念孝夫さん宅（砺波市太田）を柏樹代表と天野の二人が尋ねました。安念さん宅は自宅の屋敷林と隣の寺院等の大ケヤキにすっぽりつまれ、毎年、落ち葉の掃除には大変苦勞されているとのことでした。

家の周辺を案内していただきながら、今まで試された雨どいの掃除方法についていろいろお聞きしました。

- 一、煙突掃除ブラシを首で曲げ長い竿にしばり下から雨どいをかくようにすくいあげる。しかし、縦樋に詰まる。
- 二、プロアーという簡易電動送風機で雨どいを掃除。作業が大変。
- 三、散布機を利用する。重くてつらい。

等・



軒先がすっきり



樋に雪がひっかからない

その道具や機器を収納してある小屋も見せていただきました。いずれも安全な地面にいて樋掃除ができるもので、大屋根の雨どいには間に合わないとのことでした。そして、昨年「雨どいヘルメット」を設置して本当に楽になり喜んでいらつたこと。工事費には、本屋根から下屋根の全ての雨樋（全長150メートル）に取り付け約三十万円かかり、取り付け作業も短時間でできたそうです。現在の軒樋の上のせてしるだけです。

カイニヨの手入れもいろいろ大変なようですが、春先のケヤキの芽吹きや夏のさわやかな風が送りこまれてくること。でいながらの森林浴を楽しんだり、落ち葉を堆肥にして菊を育てたりして、樹木と上手に付き合ひ、苦勞をやわらげていらつしやるようでした。

「雨どいヘルメット」は確かに落ち葉が樋に入らないことで効果があり、雪に対しても樋に雪が引つかからないことがわかりました。ただひとつ欠点として、凍結の際、目皿の小穴が凍りつき、樋の裏にツララが下がり、それが解けると雨だれになるといふことがありました。

こうした雨どいの掃除方法は、会員の中谷壮美さん（砺波市鷹栖）も自宅の大ケヤキとの付き合ひでいろいろ試されています。ほかにもいろいろ工夫をされていると思えます。体験談やご意見をお寄せ下さい。



■雨どいヘルメットのお問い合わせは、事務局まで